

「平成 30 年度 学生と市長の放課後ミーティング」に参加して

社会福祉学部 社会福祉学部 3 年

工藤桜佳

市長ミーティングでは、まず私が所属している「ヒロガクインクルージョン」で 1 年間行ってきた活動を伝えました。そして、社会福祉を学ぶ学生だけではなく、他大学の学生の皆さんや地域住民の方々も一緒にこれらの活動に参加し、地域課題を共有することで問題解決に取り組んでいくことができるのではないかなど、活動を通して感じた事をお伝えしました。

生産年齢人口が減少していく中で、2025 年に団塊の世代が後期高齢者になる問題に着目し、これからますます近隣住民同士の繋がりは弱くなってくると考えました。そうなったときに高齢者の孤独死の問題や認知症の問題、児童虐待、生活困窮、多重債務の問題等、地域の課題が多様化・複雑化してくること、実際に複合化した問題を抱えた方が行政の窓口相談しに来た時に、専門の窓口相談に行く前に、その方がまず解決しなければならない問題は何なのか優先順位を見極める、総合相談窓口が必要になってくるのではないかなどということをお伝えしました。

そして、包括的に生活のアセスメントを行い、適切な部門やサービスへつなげるワンストップサービスの提供、この役割は社会福祉を学んだ社会福祉士や精神保健福祉士のような社会福祉専門職が適任であると感じ、弘前で暮らす一市民として、安心・安全な生活を送ることができる環境を整えることは、弘前市全体を豊かにすること、そのため行政に福祉専門職が増えることが重要なのではないかなどということを櫻田市長にお伝えしました。櫻田市長からは、弘前市における社会福祉の展望についてお聞きすることができ、さらに地域に貢献できる活動を続けたいという気持ちを高めました。

また、他大学の方々のアドリブ力に大変驚きました。簡単なメモのみの方や、なにも持ってきていない方もいて、それにも関わらず市長の前で堂々と発表しており、自分の力不足を感じました。市長ミーティングが終わったときに、市長が何も用意しないで、思ったことを言えばいいよとおっしゃっており、最初のあいさつの時に言っていた、学生だからこそ出来ること、伝えられること、これが大切なのだと感じました。

私は12月2日に開催された「学生と市長の放課後ミーティング（以下、放課後ミーティング）」に参加させていただきました。これまで、他の大学の学生がどんなことに関心があり、実際にどのような活動をしているのかなど考えたことはありませんでした。今回、市長ミーティングの存在を知り、普段話すことのない他大学の学生と交流を図れる良い機会だと感じ、参加を決めました。

放課後ミーティングは、参加した学生11人がそれぞれ所属している団体での活動を通して気づいたことや、学生生活を送るなかで起きた疑問などを市長に問いかけるというものでした。それぞれ大変興味深い内容で、自分の視野がいかに狭かったかを気付かされました。特に心に残った内容を紹介したいと思います。

まず1つは、「先人に学べる町、弘前」です。歴史の深い弘前では過去様々な出来事があり、それらの歴史を学ぶことで、同じ歴史を繰り返すことなく、良い文化を尊重し、より良い弘前を後世に繋いでいくことが私たちにはできるのではないかと感じました。

2つ目は、「他人事ではなく我が事に」です。これはゴミの削減に対し指定袋をつくるのはどうかという学生の間に対し、「指定袋になったからゴミを減らそうとするのではなく、自分からゴミを減らす意識がなければ根本解決には至らない」という市長の意見を伺いました。これは単にゴミの問題に対しての意識だけにとどまらず、市民が生活する上での様々な生活課題でも同様に、表面上の課題にだけ対応するのではなく、その問題の根っこに目を向ける大切さを気づくことができました。

今回の「放課後ミーティング」は私にとって、大変いい刺激であったと共に自分を高められる機会であったとも感じています。今回の経験を通し、これからも様々な活動に関心を持ち、向上心を絶やすことなく、学生同士で切磋琢磨していきたいと思っています。

大学コンソーシアム学都ひろさき 学生団体シンポジウム

6大学と学生1万人が弘前をつくる

